

# BIBLE + MESSAGE

さばいてはいけません。さばかれないためです。あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。（マタイ7章1～2節）

イエス・キリストは、他の人をさばいてはいけないと教えられました。その理由は、誰かをさばくと、自分自身も同じようにさばかれてしまうからです。

私が誰かに「〇〇さんは、いつも人の悪口ばかり言っているね」と言ったとします。そうすると、今度は私自身が「あの人はいつも人の悪口ばかり言っている…」と、周りの人たちからうわさされるようになってしまうのです。投げたブーメランが自分のところに戻ってくるように、人に対するさばきの声は、やがて自分自身のところに帰ってくるのです。

「周りの人とうまくいかない…」。たくさんの人たちが人間関係に悩んでいます。しかし、もしかしたらその原因は、他の人をさばいてしまう自分自身の心にあるのかもしれません。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半  
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

## 聖書を読んだ日本人

今回は「瞬きの詩人」と呼ばれる水野源三を紹介します。

源三は5人兄妹の次男として長野県の坂城町に生まれました。坂城は千曲川のほとりにある自然に恵まれた美しい町です。

戦後間もない1946年8月のこと。当時、猛威をふるっていた集団赤痢が坂城町を襲います。小学4年生だった源三も赤痢にかかり、十数日にわたって高熱にうなされたそうです。ようやく熱が下がり、源三は意識を取り戻しましたが、長時間の高熱が続いた結果、重度の脳性麻痺になってしまいました。手足を動かすことができなくなり、やがて話すこともできなくなってしまうそうです。見ることも聞くこと以外、何もするこ

とができません。彼は幼くして、寝たきりの生活を送らなければならなくなったのです。両親は何とか源三を助けようと、さまざまな治療を行います。何の効果も見られません。

それから数年経ったある日のこと。当時、パン屋を営んでいた水野家に宮尾隆邦という牧師がパンを買いにやって来ました。源三のことを知った宮尾牧師は、彼に聖書の話伝えるようになります。宮尾自身、筋萎縮症の病を負っていたこともあり、源三は徐々に宮尾の語る聖書の話に耳を傾けるようになっていきました。重い障がいを負って以来、何の希望も見出すことができないでいた源三の渇いた心に、聖書の言葉が注がれて



坂城町にある  
水野源三の記念碑



水野 源三  
(みずの げんぞう)  
1937年～1984年

いったのでした。やがて彼はイエス・キリストを信じ、1950年12月に洗礼を受けるのです。クリスマスチャンとなった源三は、18歳の頃から詩を作るようになります。書くことも、話すこともできないのに、どのようにして詩を作ることができたのでしょうか。それは「瞬き（まばたき）」によってでした。（次号に続きます）